

# 人工腎臓部・細胞療法センター

## 1. 看護単位の概要

透析ベッド数 21床 外来診察室 2室 腹膜透析室 2室

## 2. 部署の特徴

### 1) 血液浄化関連業務

京都大学人工腎臓部は全国国公立大学附属病院の中で最も早期に設立され、最大規模の血液浄化設備を有する。慢性腎不全患者に対する血液透析導入、バスキュラーアクセスの作成のほか、他科で発生する急性腎障害の内科的治療および急性血液浄化に関しての支援や、他科治療で入院中の維持透析患者に対する透析継続支援を行っている。また、移植後拒絶・劇症肝炎・自己免疫疾患・血液型不適合臓器移植手術前などに行われる「血漿交換」、炎症性腸疾患での「白血球吸着」、閉塞性動脈硬化症や家族性高コレステロール血症での「LDL吸着」、敗血症に対する「エンドトキシン吸着」、治療抵抗性の妊娠高血圧腎症に対する「sFLT1吸着療法」、その他に血液分離装置を用いた骨髄濃縮や腹水濃縮等も行う。

これら一連の血液浄化にかかる患者のケアが看護業務の中心となる。看護師は、医師・臨床工学技士などと共に多職種チームの一員として、体外循環治療における安心・安全な医療を提供する。また、診療科病棟をはじめ外来部門、輸血部門、医療機材部などとの部署間連携も重要である。高齢化により高齢患者の維持透析導入は増加傾向にあり、特に腎硬化症患者が増加しているなかで、維持透析導入前の腎代替療法選択外来にも力を入れている。慢性腎不全の進行予防だけでなく、透析導入前から透析導入後の生活指導まで切れ目のない患者サポートを目指している。

腹膜透析外来では腹膜透析導入時の入院中から病棟と協働し、入院から外来通院に繋がる自己管理指導を実施している。在宅での自己管理指導には、医療者と患者が共に管理を行えるように専用アプリを活用している。また、隔月に実施している慢性腎臓病患者に対する腎臓病教室は、当院の患者だけでなく地域の患者も受け入れ、広く地域社会に貢献している。

### 2) 輸血細胞治療関連業務

2019年に開設された細胞療法センター(C-RACT)と連携し、体外循環により血液内の様々な成分を分離する特殊な血液浄化(アフェレシス治療)を行っている。2021年度からは血液疾患などの治療を目的としたキメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)療法を行い、キムリア®・ブレヤンジ®・イエスカルタ®・アベクマ®が製品化された。2023年度からは慢性GVHDに対するフォトフェレーシスも開始され、新しい治療に向けた手順整備が進められている。

その他、移植・外科的治療・化学療法などの治療に備えた末梢血幹細胞採取をはじめとする各種血球採取や、自己血採取も行っており、今後もより一層安全な血球製剤の運用と患者ケアのさらなる向上が課題である。